

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立膳所小学校

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

○調査対象 小学校第6学年

○調査内容

◇教科に関する調査（国語、算数）

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な問題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

◇生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

○調査結果の概要

《概要》

国語は滋賀県と全国の平均正答率を下回った。算数では滋賀県の平均正答率を上回ったものの、全国の平均正答率をやや下回る結果となった。全体的には、滋賀県の平均正答率と大きな差は見られなかったが、全国の平均正答率と比べるとやや下回る傾向が見られた。質問紙調査では、朝食の取り方や起床時刻など、基本的な生活習慣について意識している児童の割合が高かった。また、自分のよさを感じ、将来の夢や希望を持っている児童の割合が高い傾向が見られた。

《強み・弱み》

国語では、文中で漢字を正しく使うことに強みが見られた。「書くこと」の正答率が全国平均を下回り、文章全体の構成に着目して文章を整える力や、情報と情報との関係を捉えて自分の考えが伝わるように書き表す力に弱みが見られた。算数では、「図形」で基礎的な知識の定着が見られ、全国平均を上回った。台形や正方形、正三角形の意味や性質について理解している児童の割合が高く、図形を構成する要素や位置関係を基に図形の構成の仕方を正しく捉えることができていると言える。昨年度についても同様の強みが見られることから、強みが毎年定着してきていると言える。一方で「分配法則」など、数量の関係に着目して問題場面を解釈し、数学的に表現・処理したり、計算に関して成り立つ性質を基に計算の仕方を考えたりすることについては、弱みが見られた。

○指導の充実に向けて

- ◇考察したことを文章で表現する力を育成するために、要点を落とさないように短文にまとめるなど、作文活動を推進する。
- ◇ICT機器を活用した学習形態を積極的に取り入れ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を目指す。
- ◇学校で基礎的な学力を定着させると共に、家庭学習の充実や学習習慣の定着を図る。

R5教科に関する調査(小学校平均正答率)

